



2006年10月10日

ロールス・ロイス製 **Trent 1000**、モナークエアラインに選定される  
～ロールス・ロイスとの **25年**にわたる良好なビジネス関係を祝して～

【英国 2006年10月5日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開をするロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、英国レジャー航空会社、モナークエアライン（Monarch Airlines、以下「モナーク航空」）が、新しく導入するボーイング 787 ドリームライナーに Trent1000 を選定したことを発表しました。確定 6機とオプション 4機のエンジンを対象としたこの契約は、長期的かつ包括的なアフターメンテナンスサービス TotalCare®を含んでおり、総額で 10億米ドル（1,170億円\*）に相当します。

Trent エンジンを搭載した同社の 787 型機は 2010 年に引き渡し開始となり、現在運航中の機体の代替機として、長距離路線への就航を予定しています。

モナーク航空のピーター・ブラウン（Peter Brown）会長は次のように述べました。「当社にとって、経済面と環境面において性能が優れていることが最も重要であり、それが今回 Trent1000 を選定した大きな理由です。高い燃料効率には環境への影響を抑える一方、機体の所有にかかるコストを考慮すると健全な運航の維持は必須条件です。Trent1000 エンジンと TotalCare® により、当社の事業にとっても環境にとっても最良のソリューションが提供されることは間違いありません。」

ロールス・ロイスの上級副社長であるクリス・シア（Chris Cyr）は、次のように述べています。「Trent1000 は 787 型機向けに最適化されたエンジンであり、モナーク航空にとって最適の運航効率をもたらすべく、革新的技術とこれまでの経験に基づいた最良のバランスを提供します。モナーク航空はロールス・ロイスの古くからの顧客であり、Trent1000 のローンチカスタマーとして、英国国内で再びパートナーシップを組めることは大変に光栄なことです。」

モナーク航空は現在、エアバスの A330 型機 2機とボーイングの 757 型機 7機を含む、ロールス・ロイス製エンジンを搭載した 9機の航空機を運航中です。

ご参考：

1. 1968年に創業したモナーク航空は、モナークエアクラフト・エンジニアリング、ツアーオペレーターのコスモス社（Cosmos）、ローコストキャリア航空券取扱代理店のアヴロ社（Avro）を含むモナークグループの子会社です。モナーク航空は英国の大

\* 1ドル=117円にて換算

手レジャー航空会社のひとつであり、大小さまざまな旅行会社へチャーター便の座席を提供する独立したサプライヤーでもあります。英国の主要都市および地方の空港より、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、ならびにアジアの約 100 ヶ所に運航しています。

2. Trent1000 は、787 型機全派生型のローンチエンジンです。全日本空輸は 2008 年中旬に 787-8 型機の運航を開始し、2010 年には短距離用 787-3 型機も運航を予定しています。また同じく 2010 年には、ニュージーランド航空 (Air New Zealand) が 787-9 型機を最初に運航する予定です。
3. Trent1000 が搭載された合計 164 機の 787 型機は、この度のモナーク航空のほか、確定およびオプションを合わせて、全日本空輸、ニュージーランド航空、アイスランド航空 (Icelandair)、LOT ポーランド航空 (LOT Polish Airlines)、ブルーパノラマ航空 (Blue Panorama)、中国国際航空 (Air China)、ならびにペガサス社 (Pegasus Aviation Finance Company) や LCAL 社 (Low-Cost Aircraft Leasing) といったリース会社によって発注されています。
4. Trent1000 は、1995 年に導入された Trent シリーズの 5 番目のエンジンです。Trent1000 が商用投入されるまでに、それまでの Trent エンジンのみで累計約 3,500 万飛行時間を達成することとなります。
5. 現在、開発計画に 6 基のエンジンがあり、これらは英国ノッティンガムシャー州ハックナルにあるロールス・ロイスの野外試験施設において行われた型式テスト、耐久・遠隔測定試験、振動・横風対策試験などのグラウンドテストを終了しています。